

留学生就職促進プログラム 進捗確認所見

大学名：東京大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

- 一部計画を下回る取組がある。

日本企業への就職率向上は目標を下回る（終了年度の目標値自体が5割以下設定）。また、インターンシップの参加者数も計画比で大きく減少しているため、本事業に係るPDCAがどのように実装されていたか確認されたい。ビジネス日本語教育及びキャリア教育の実施状況は素晴らしい。

2. プログラムの内容の進捗状況

- 一部計画を下回る取組がある。

- ビジネス日本語教育について：

受講者の学びの質の維持のために、受講者数に制限をかけざるを得ない状況の中、計画を大幅に超える数の受講者が集まった点は評価できる。

- キャリア教育について：

受講者数等の実績は数値目標を上回っている。また、留学生のアントレプレナーシップ教育の強化を試みている点も評価できる。

- インターンシップについて：

研究インターンシップを提供するという特徴は評価できるが、参加者数が計画に届かなかった理由及びそれを踏まえどう対策するかについての言及が必要である。一方で、受入れ経験の少ない企業の支援として、インターンシップコーディネーターが企業面談に同席し、マッチング精度や相互理解の向上に寄与する取組は素晴らしい。

3. 実施体制の構築、活動状況

- 概ね計画通りの取組である。

- 参画大学間でのインターンシップコーディネーター会議の開催による連携などが上手く機能している。また、コーディネーターの役割が明確にされており、具体的な取組がなされている。一方で、参画機関である東京理科大学による本事業への貢献が見られない。

- オンライン教育プログラムを企業へ有償提供することによって、自前の奨学金制度の維持を図るとあるが、進捗について記載がなく評価を行うことができない。

4. 他大学が参考にできる事項等

- 「日本語中級レベルの留学生からビジネス日本語を学べる新たな機会の創出や、入学直後での就業を意識した学習モデルの紹介等の取組」の事例は他大学の参考になる。
- インターンシップコーディネーターによるマッチング業務がどのように展開されたのか、ノウハウを他大学に伝播できると良い。